

研究計画書

<b>ゼミ名</b>	寺尾ゼミ II	<b>チーム名</b>	Red Matching
<b>タイトル</b>	集血？終血？～献血制度の問題解決！～		
<b>テーマ群</b>	a) 理論・情報 c) 公共経済		
<b>メンバー</b>			
<b>研究計画内容</b>	<p>日本赤十字社の報告によれば、現在、日本においては年間 500 万人以上が献血を行っているものの、医療用の血液製剤は慢性的に不足している。例えば、日本の輸血用の血液製剤については、その 85%以上が 50 歳以上の患者に提供されている一方で、献血の 70%が 50 歳未満の人々によって行われているのが現状である。少子高齢化に伴って、今後は若年層の人口がさらに減少し続けることが確実であるなか、近い将来、医療用の血液製剤の安定的な供給に支障が生じることが危惧されている。</p> <p>今回の私たちの研究―「マッチング理論を応用した血液事業の再設計」―は、マーケットデザインにおけるマッチング理論を応用して、血液事業を効率的にかつ効果的に行うべく献血制度を再設計し、医療用の血液製剤が慢性的に不足するという課題を解決する施策を提示するものである。</p> <p>解決すべき問題は、大きく分けると 2 つある。1 つは、献血による血液の総供給量の不足である。もう 1 つは、現状では、日本赤十字社が医療機関の血液需要を予測しその予測に基づいて必要な血液の献血を募るという「コーディネーター」の役割を果たしているが、献血による血液供給者と血液需要者との間での情報の非対称性が存在しており、不足している血液型の血液が献血によって優先的かつ安定的に確保・供給されるようなシステムが構築されているわけではないという「ミスマッチング」である。私たちの仮説は、「献血制度を軸とする現行の血液事業は、血液の需要者と供給者との最適なマッチングを実現していない」というものである。</p> <p>私たちの研究で明らかにされることは、①「供給者」の血液型と「需要者」の血液型との間の安定的なマッチングが満たすべき条件 ②血液型の安定的なマッチングを実現する献血制度が備えるべき要件 ③血液型の安定的なマッチングを実現する献血制度を軸とする、実現可能かつ持続可能な血液事業が備えるべき要件 の 3 つである。</p>		